CASSIOPEIA NKANI

Vol. 29 March 2024

CASSIOPEIA－UHC達成に向けて、対象の5つの病院における、5つ星に輝く質の高い医療ケアサービスを目指して

JICA　ルサカ郡総合病院運営管理能力強化プロジェクト

カシオペアプロジェクトの専門家とプロジェクトスタッフが、3月22日にルサカ州保健局で開催されたオリエンテーションで、5つの対象病院からの研修候補者が申請書を記入するのを手伝う様子。

医薬品の在庫管理に期待が高まる 5病院の薬剤部が93台の棚の供与を受けた

ルサカ郡保健局が、医療機器週次報告の技術支援のために対象病院を訪問

PHOTO FOCUS

© JICA - The Project for Strengthening Management Capacity of the General Hospitals in Lusaka District

医薬品の在庫管理に期待が高まる 5病院の薬剤部が93台の棚の供与を受けた

カニャマ一次レベル病院の薬局部門責任者 ユニス・ナンベイ氏と一緒に棚を確認しているプロジェクト塩田専門家。

プロジェクトの対象5病院（チャワマ、チレンジェ、チパタ、カニャマ、マテロ）は、JICAカシオペア・プロジェクトから93台の棚を供与されました。

これにより、薬剤部では、医薬品の在庫管理が改善すると期待が高まっています。対象病院の薬剤部には、医薬品や医療材料を保管する十分なスペースが元々ありませんでした。この医薬品と医療材料は、ザンビア医薬品医療材料庁（ZAMMSA）から主に供給されますが、これまでも、それらを院内各部門へ分配するスペースがないことが指摘されていました。

プロジェクトの成果3は、対象病院が、必須医薬品・医療材料の在庫管理を確実に実施することを目標のひとつにしています。そのために、薬剤部門は医薬品・医療材料の在庫を確実に把握できる必要があります。今回の棚の供与は、スペース自体を広げることが困難な環境で、限られたスペースをいかに有効利用するかを念頭に、薬剤師や薬局技師が医薬品・医療材料の在庫管理を行いやすくする支援でした。棚で空間を有効利用することで、在庫状況が把握しやすくなれば、薬剤部は、使用頻度の高い医薬品を把握できるようになるでしょう。また、使用期限が近い医薬品を把握して、計画的な消費を促せるようになるはずです。さらに、収納スペースが増えると、薬剤部のスタッフも安全な職場環境で仕事ができるようになります。これまでは、医薬品と医療材料の箱が無造作に高いところにも置かれていたために、スタッフが物品を取ろうとすると、箱が落下してくる危険がありました。医薬品によっては破損により、スタッフに危害を及ぼすものもあります。今では、薬剤部の物品は整理・整頓され、安全な環境が整備されています。

これまでのところ、対象5病院のうち4病院で棚の設置が完了しています。残りのチレンジェ病院では、改築により薬局スペースを広くしようとしています。

今回のように作業環境が充実し、整理・整頓がなされることで、業務を担うスタッフのモチベーションも上がります。このような変化は、自ずと提供されるサービスにも良い影響を与え、薬剤部の関係部署にも、よりよいサービスが提供されるようになると期待されています。

JICAカシオペア・プロジェクトで、成果3の技術支援を行っている塩田専門家は、対象5病院の薬局は、長いこと与えられた限られた状況でやりくりしなければならなかったと述べ、「棚の設置により軽減される問題がある」と今後への期待を熱く語りました。

プロジェクトの支援を受けた後のマテロ一次レベル病院の薬局棚の様子。

塩田専門家がカニャマ病院のウィルソン・ムベウェ院長とユニス・ナンベイ氏と一緒に、薬局棚を確認している様子。

左から：塩田専門家、ロイド氏、緒方業務調整、リタ氏、法月チーフアドバイザー、ニャンガ専門家。プロジェクト現地スタッフのリタ氏は日本への留学のため、カシオペアプロジェクトを退職しました。緒方業務調整や他のプロジェクトスタッフと密接に協力し、リタ氏はオフィス管理を始めとしたさまざまなプロジェクト活動を担当していました。

リタ氏からのメッセージ

カシオペアプロジェクトチームの一員として活動できたことは大変光栄でした。これから学業に専念するために日本へ旅立つことになりましたが、このように良い形でお別れを言えることをとても嬉しく思います。プロジェクトチーム全体の支援に感謝し、5つの一次レベル病院における管理能力向上という目標の達成に向けて、プロジェクトが大きな成功を収めることを心から願っています。ありがとうございました。

© JICA - The Project for Strengthening Management Capacity of the General Hospitals in Lusaka District

ルサカの一次レベル病院管理者、バランスト・スコアカードの研修マニュアルを協議

ルサカ州行政局（LPAO）は、2月5日から13日までの7日間、内閣府管理開発部（MDD）のチームを派遣して、州政府の管理者に第8次国家開発計画（NDP）の戦略計画とバランスト・スコアカード（BSC）の研修を行いました。

JICAカシオペア・プロジェクトの5つの対象病院から各2名の病院運営幹部も参加し、バランスト・スコアカードと管理手法全般に対する理解を深めました。病院運営の効果的な戦略の立案と管理者が日々直面する問題を解決するスキルにも重点が置かれました。

対象5病院の病院運営幹部は、この州全体の研修に続いて、ルサカ州保健局（LPHO）が3月5日に開催したワークショップにも参加しました。このワークショップでは、病院のビジョンの実現を目的とした病院研修の学習内容を標準化し、各病院で異なるニーズに合わせて利用できる適応性の高い研修マニュアルが作成されました。これを契機に、病院管理の手引きを作成する意欲も高まっています。

これを踏まえて、チパタ病院の病院長と病院運営幹部は、ルサカ州保健局、ルサカ州行政局、JICAカシオペア・プロジェクトの支援により、3月18日と19日の2日間に、病院管理全体の戦略と問題解決スキルを学ぶ研修を開催しました。

研修では各部門長がグループワークに参加し、病院全体と各部門が直面する問題を協議し、部門レベルのバランスト・スコアカードを作成し、部門の問題の解決法と対策案を発表しました。

バランスト・スコアカードを活用すれば、各病院のマネジメントはよくなります。これは同時に、公共施設のマネジメントを強化したいという政府の目標にも沿っています。

研修の最後に、チパタ病院の感染予防管理担当で、院長代行のタディー・チバング医師は、研修のファシリテーターによる発表と訓練内容への賞賛の言葉とともに、「病院のマネジメント能力を強化し、その究極的な目標である顧客（患者）により良いサービスを提供するためには、継続的な能力強化が必要」と述べました。

写真（左）：病院管理者向けワークショップでのニャンガ専門家とルサカ州保健局のピーター・ムレヤ氏

写真（右上）：チパター次レベル病院でのBSC研修中のクイーン・チャンポ氏。

写真（右下）：BSC研修（チパター次レベル病院対象）終了後の集合写真。

© JICA - The Project for Strengthening Management Capacity of the General Hospitals in Lusaka District

ルサカ州・郡保健局と病院職員が訪日研修のオリエンテーションに参加

ルサカ州・郡保健局と病院職員は、JICAカシオペア・プロジェクトが3月20日と22日に州保健局で開催した知識共創プログラム（KCCP）のオリエンテーションに参加しました。

知識共創プログラム（KCCP）は、JICAがプロジェクトの相手国カウンターパートを日本へ招いて実施する人材育成支援のアプローチです。JICAカシオペア・プロジェクトの目標のひとつは、5病院の病院運営管理能力の強化とガバナンス・システムの改善であり、組織運営のノウハウや社会システム、日本の社会がそれらの知見をどのように蓄積してきたかといった日本の事例紹介を含む実体験を通じて、ザンビアの実情に合わせた対応策を集中的に検討する機会を持つために、訪日研修を実施しています。

これまでプロジェクトでは、病院運営幹部のマネジメント能力の強化に重点を置いて訪日研修を実施してきました。1回目の2022年には、5人の病院長と州保健局の局長、臨床診療専門家、主任環境衛生背責任者を研修員に迎えました。2回目となった2023年には、5病院の看護師長と病院事務管理者を州保健局の公衆衛生専門家と看護主任と共に迎えました。そして、今年度は、病院運営幹部と各部門長とのつながりが重要な局面を迎えている実情を反映し、各病院の病院計画責任者（企画部長）と薬剤部長、郡保健局と州保健局の職員を迎える予定です。オリエンテーションでは、知識共創プログラム（KCCP）の概要と研修期間中に何を学び、帰国後に所属病院で何を期待されているのか、行動計画の発表が求められていることなどが説明されました。

今年度は、各部門のビジョン・マネジメントを病院全体のビジョン・マネジメントと整合させることが重要な局面を迎えています。研修員達は、「訪日研修で日本の病院経営の実情を知り、研修後にザンビアの日常業務に活かす」という明確な目標を持って、このオリエンテーションに臨みました。

写真（左）：プロジェクトの塩田専門家とニャンガ専門家が、ルサカ州保健局で行われた国別研修のオリエンテーションセッションで日本で研修候補者をサポートしている様子。
写真（右）：国別研修のオリエンテーションセッションで、候補者への説明が行われている様子。

© JICA - The Project for Strengthening Management Capacity of the General Hospitals in Lusaka District

ルサカ郡保健局が、医療機器週次報告の技術支援のために対象病院を訪問

ルサカ郡保健局の医療機器担当官（MEO）であるフライデー・マタファリ氏、オーベッド・サムシク氏は、JICAカシオペア・プロジェクトの塩田専門家とともに、3月21日に一次レベル病院3カ所を訪問しました。

この訪問の目的は、病院の臨床工学技士（BME）と医療機器技術者（MET）が、ルサカ州・郡保健局が義務づけている医療機器のトレーサーリストの更新と週次報告をどのように実践しているか確認することでした。

郡保健局の担当官は、故障している機器やまったく機能していない機器がみられたときに、病院の各部門が、医療機器技術者（MET）と臨床工学技士（BME）に、警告を発する報告手順の遵守に焦点を当てました。また、各病院の担当者が、各部門を毎週巡回して、すべての機器のメンテナンス作業を行うことと、週報を郡保健局のチームに提出することが必要であると強調しました。

この週報は、どの機器が正常に作動しており、どの機器が軽度の修理あるいは大規模な修理が必要なのか、また、修理が不可能で利用廃止リストに載せるべきなのかを、医療施設側が把握するのに用いられます。週報により、さらに郡・州保健局では、施設の医療機器の問題点を特定し、病院で対処できない課題、特に大規模な修理が必要な機器や老朽化した機器に対して、郡、州、保健省レベルで対処できるようになります。

JICAカシオペア・プロジェクトの成果3は、各対象病院で、必須医薬品や医療材料の在庫管理の強化と、医療機器の適切な管理・保守の実施に取り組んでいます。

塩田専門家と郡保健局の担当官は、郡保健局の設定したスケジュールを遵守し、適時適切に医療機器の週次報告を実践することで、病院では対処できないような課題に迅速に対処するよう各病院の担当者を激励しました。

写真（左）：改訂された医療機器トレーサーリストを確認する、ルサカ郡保健局のオベッド・サムシク氏、チレンジェ一次レベル病院のジョセフ・カンヤレ氏、とプロジェクトの塩田専門家。

写真（右）：チャワマー次レベル病院で週次報告のひな形を確認する、塩田専門家、ルサカ郡保健局のフライデー・マタファリ氏、ナタシャ・ムウェラ氏、ダリウス・ムレンガ氏、サムシク氏。

© JICA - The Project for Strengthening Management Capacity of the General Hospitals in Lusaka District

PHOTO FOCUS

プロジェクトのニャンガ専門家が、チャワマー次レベル病院のIPCチームとIPCラウンドを行う様子。

ルサカ州保健局のピーター・ムレヤ氏が、一次レベル病院の管理者向けのマニュアルの作成に関するトレーニングを行っている様子。

チャワマー次レベル病院にて、ルサカ郡保健局のマタフワリ氏、オベッド・サムシク氏とプロジェクトの塩田専門家が資料を確認している様子。

プロジェクトアシスタントのリタ氏が、国別研修のオリエンテーションでチレンジェー次レベル病院のアグネス・チャンダ氏をサポートしている様子。

法月チーフアドバイザーが、チパタ一次レベル病院のBSC研修で挨拶をしている様子。

塩田専門家がチャワマー次レベル病院でカウンターパートと一緒に、酸素濃縮器について協議している様子。

編集・デザイン：コンベ カパタモヨ
編集：緒方 敬
編集長：村井 真介

連絡先
村井 真介 ルサカ郡病院運営管理能力強化プロジェクト チーフアドバイザー

住所：Plot No.11743A, Brenwood Lane, Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka, 10101, ZAMBIA
Cell: +260 765 192 865 (official)

塩田専門家とルサカ郡保健局の医療機器担当者が、カニャマー次レベル病院のウィルソン・ムベウェ院長を訪問している様子。

© JICA - The Project for Strengthening Management Capacity of the General Hospitals in Lusaka District